

平成23年度 第1回二宮町ごみ減量化推進協議会 会議録

日 時：平成23年8月31日(水)

午前10時～午前11時50分

場 所：二宮町役場2階 第1会議室

出席者：土屋会長 / 平田委員 / 浅田委員 / 山田委員

事務局：町民生活部長 石井/生活環境課長 筑紫 / 生活環境班副主幹 生井 / 生活環境班主任主事 須田

傍聴者：1名

1. 開会

2. 委員の委嘱等について

- ・委員の自己紹介

3. 議題

会長により議事進行

- (1) 廃食油の分別収集について
- (2) 今後のごみ減量化方策について
- (3) その他

(1) 廃食油の分別収集について

『事務局から資料1、平塚・大磯・二宮ブロック広域化実施計画案、スライドの説明』

【意見・質問等】

会 長： 廃食油の分別収集について、平塚、大磯では、市民・町民からどんな声がありましたか？

事務局： 平塚市、大磯町の住民の声については、分かりませんが、大磯町では、問題なく動いていると言っていました。

委 員： 私の住む地域では、廃食油回収委員の油の回収は、定着しています。

最初は抵抗があっても、1回持っていくと2回目、3回目となります。油を固める物を使うことに抵抗を感じている人が多いように思います。

リサイクルを考えたときに、収集する方法は間違いないと思うので、進めていけば良いと思います。

会 長： 収集する方向としては、よろしいということで良いでしょうか。

委員： 実施時期は、広域化の時期ではなく、先行してやった方が良いと思います。普通のごみとして油を新聞紙に含ませて出す人もいれば、委員の所に届ける人もいます。まだ徹底していません。一挙に広域化で始めるよりも少し先行して収集した方が、馴染んでいくと思います。

委員： 収集頻度や形態にもよりますが、広域になった時に、なるべく収集日が変わらないような形が望ましいと思います。今から始めて、流れを作ったのに、広域化で収集形態を変えてしまうと、住民が混乱してしまいます。2回3回と収集日が変わったりしない方が良いと思います。

委員： 廃食油はエコクッキングの観点から言いますと、どこまでいくと科学的に体に良くないのかというのも気になるところです。「活性酸素が発生するので3回使ったら、捨てましょう。」という栄養士もいれば、「何回でも、ろ過をすればきれいに使える。」という人もいます。

私たちは、昔、母親からてんぷら油は、1回で捨てないで、ろ紙を通して、もう1回くらい使い、最後は炒め物に使うと教わりました。

廃食油は、何回まで体に影響なく使えるのかを研究し、即刻、廃食油にしないようにする必要があると思います。

ともしびショップに関わっているのですが、かんな作業所で廃食油から作ったせっけんを売っていますが、良く売れています。1つ50円ですが3、4個をまとめて買っていく人が多いです。ともしびショップで出た油をろ過して、かんな作業所に持っていきます。

廃食油を収集することになった場合、町民の皆さんにも、ろ過してから出してもらうのですか？

会長： 今までごみとして出していたものを家庭で、ろ過して出してくださいと一挙に変えることができるでしょうか？難しいので、期間が必要なのではないのでしょうか？

事務局： 町民の皆さまが、ろ過するまでやる必要があるかについて、調べたところでは、無いと思っています。業者が引き取った後、精製すると思われます。ろ過すことまで強いると恐らく、そこまで出来ないと毎日出るごみで出す人もいると思うので、まずは、とにかく分けて出してくださいというところから始めたいと考えています。

会長： 途中で二転三転すると混乱します。廃食油の分別収集を開始するときは、その辺まで調査・研究をしてから実行してください。

委員： 平塚・大磯が依頼している業者は油を何に使っていますか？

事務局： 主に印刷インクに使っています。

委員： 例えばリサイクルの観点から、リサイクルしてごみ収集車の燃料に加えれば、二宮の油が燃料になります。登録しておけば、ある程度貯めておけるので、災害

時にも応用できるのではないかと思いますので、色々な方面で考えてもらえれば今後役立つと思います。

事務局： 業者のカタログでは主にインクですが、おそらく良いものについてはバイオディーゼル用の燃料にもしていると思います。

委員： 廃食油からせっけんを作る時には古い油の方が良いと聞きましたが？

事務局： せっけんづくりをしている過程ではそこまで分かりませんが、分析はしていませんが、何かの差によって固まり具合や出来具合が異なるのは確かです。

会長： 現在の回収委員による回収場所は、町内に何箇所ありますか？

事務局： 各地区に必ず一人いるというわけではありません。ボランティア的なもので、平成2年に始めた頃から続けている人がほとんどで、20人以上はいます。

会長： そこで集めたものを町の職員が所定のところへ運搬しているのですか？

事務局： そうです。まず委員の所に取りに行き、せっけんづくりで使いきれなかったものは、売却しています。

話は変わりますが、3月の大震災でエネルギーの供給が難しくなりました。平塚で焼却炉を作っていますが、高効率発電といって、発電施設になっています。

発電量を上げるためには高カロリーのものが必要ですので、てんぷら油は良いとも考えられます。そういった意味で、発電というエネルギーに変えて再利用するという方法に今後、国が方向転換してしまうのではないかという懸念があります。

しかし、町としては、広域の実施計画でも大きな目標としている3Rを推進をしていきます。ただ、まったく違った方向の話が出てくる可能性もあるということをご理解ください。

委員： 廃食油収集の具体的な開始時期は？

事務局： 少なくとも平成28年度には他市町と統一する必要があります。

分別収集を変えらるとなると簡単にはいきません。最低でも1年前くらいには準備期間としてスタートしないと難しいと考えています。そうすると平成27年度には変えていきたいと考えています。そのための準備として最低でも平成26年度中には各地域にこう変わるとお知らせしなければなりません。そのような形の概略の心積もりでいます。

委員： 逆に一緒に始めたほうがスムーズにいくのではないですか？

事務局： 1年前倒しで助走をとりたいと思います。つい最近、剪定枝を月に2回から4回に変えましたがほとんど混乱はありませんでした。二宮の住民は、ごみのことに関して意識が高く、町がこうしたいと言うと協力してくれます。変えることは簡単ですが、それを純粋なものにしていくのは時間がかかるのではと思います。

会長： 二宮町として、収集方法については検討していただく必要がありますが、今後は、収集する方向でいくということによろしいでしょうか。今後も質疑をしてい

きたいと思います。

(2) 今後のごみ減量化方策について

『事務局から資料2の説明』

【意見・質問等】

委員： 水切りネットの配布は、ずっと続けていかないと、1年や2年では効果は出ません。水分は減っていると思いますが、収集しているとやはりまだ多いです。できれば、継続していただきたいです。

会長： ごみの重量の問題が絡んでくるわけですね。

委員： 衛生面でも良くありません。

事務局： 今、焼却をお願いしているのが1番安いので22,000円/t、高いところで35,000円位です。考えると半分水なので、水を燃やしてもらっているような形になります。水分を減らすのは至難の技ですが、減っていけばそれなりに煙に消えるお金がなくなります。

委員： 販売店という言葉が出てきましたが、ごみ袋を売っているところで水切りネットを販売しているわけではありません。水切りネットは「どこで売っているのですか」とよく聞かれます。

事務局： 水切りネットなら何でも良いということであれば、100円ショップなどでも扱っていますが、町と同じものと言われると町内には1店舗しか扱っていません。町と同じものが良いという人も結構います。ただ、生分解性のネットは価格が高くなってしまいます。

委員： 生分解性のネットは、ちょっと、きめが細かすぎます。うどんをこねるように最後に水を切っていますが、弱いと思います。

事務局： ビニール製から比べると弱いかもしれませんが、話は違いますが、平塚市は水分ひとしぼりについて努力していて、ごみ削減に協力するといった宣誓書を書いた家庭に、プラスチックみたいので出来た水をしぼる道具を配布しています。材質的に柔らかいので、しぼるのは、その容器ごとしぼるので直接ごみに触れなくて済むという製品です。こういった製品もあるので、どういうものが良いのか検討していく必要があります。

二宮町としては、分別もこれ以上は、難しいので、水分を削減していかなければなりません。

委員： 水切りネットを販売することは出来ませんか？

事務局： 購入していただけるかどうかです。町で扱っているのが高いためです。もっと安い製品もあります。町で生分解性を使っているのは、堆肥化を念頭においた時期があり、生ごみ処理機も補助金を出しています。そういうものに直に入れられるということでやっています。逆に水切りだけをメインにすれば、もっと安価で

水切り専門のものに変えれば、同じ金額でも数を増やすことができます。

委員： コストの問題ですね。製品が変わったら、住民にしっかり周知していかないと
いけません。

私は素手で水分をしぼります。ただ、皆ができる方法ではありません。私が生
ごみをしぼるときに、「えっ、そこまで？」という人もいます。1回ごみに出して
しまうと、ごみになってしまいます。さっきまで食べても良いものだったのに・・・
ごみになってしまって、触ることにも「ちょっと」という顔をする人がいます。
町民が出来る方法、簡単で環境に良い方法が良いです。

また、みんなの税金がここに相当使われているよ。と広報されていますが、定
期的に、ごみの量・かかった経費・ひとしぼりにより減った税金・その税金の使
い道を町民に還元するよう啓発していくことが必要です。

あと、3年くらい前は、ごみの収集車が出ると、以前は水が相当流れていまし
たが、今は無くなっています。

会長： 広報にのみやなどで減量に関する方策をPRしていますが、ごみの削減率が何
パーセントまでいっているのか。最近のPRを見ていません。

事務局： 毎月お知らせしていますが、小さいかもしれません。

会長： 町の方針をPRする意味でもしっかりと広報することは必要です。

水分ひとしぼりについては、水を切ることが大目標なので、継続すべきですが、
手段については、再度、検討してください。

事業用のごみについてですが、中身までチェックしているのは、大変なご苦労
だと思います。事業用は、全体のごみの何%ありますか？

事務局： 月に750キロ以上出る事業者については、ごみ置き場に出していけないこと
になっています。こちらについては、量を把握していますが、それ以外の事業者
については、ごみ置き場からの収集になるため、分からないのが現状です。

会長： 事業者を把握はしていますか？

事務局： 把握するのは、難しいです。といいますのは、2階に住んでいて、下でお店を
やっている場合です。同じお茶を飲んでも、お店の客に出したのは事業系、自宅
で飲んだのは家庭系と細かくいうと分かりますが、そこまで出来ないのが現状で
す。

会長： やはり事業者に対して、手紙を出してお願いしていくことが必要です。実際に
黄色い袋がどれくらい販売されているのかを把握し、それによって、もっとPR
をすべきです。事業系ごみ袋の徹底について、難しいのは分かりますが、業者に
周知徹底をしていかざるを得ないのではないかと思います。

(3) その他について

『事務局から参考資料、藤沢個別収集の資料、スライドの説明』

【意見・質問等】

事務局： 収集車が入れるところまで入って収集します。切りまわしが出来ないとバックで入って行きます。車が入っていけないところは、最高300mまで職員がそりみたいなものを持って入って行きます。住民からの苦情はまったくないという話でした。

委員： 収集車は何百台もあるのですか。

事務局： そんなにはないと思います。細かく区切ってやっているようでした。藤沢市もごみ袋を有料化しているのですが、二宮より高いです。ごみ袋の金額が二宮の事業系と同じ値段です。

委員： 事業系と同じですか。

会長： 二宮の倍ですね。

事務局： 倍以上です。家庭用収集袋はサイズが4つありますが、10枚入りで50が100円です。1枚10円で1リットルあたり2円になります。二宮町の場合は、1リットル0.2円とかです。桁が違います。

会長： 5倍くらいですかね。

藤沢の一声ふれあい収集についてですが、二宮では、現在、社会福祉協議会で10月くらいからコーディネーターみたいな制度を登録して行っていると聞きました。社会福祉協議会と打ち合わせをしつつ、実施できないでしょうか？

事務局： 福祉部門と調節しないと環境部門だけでは入りきらないところがあります。しかし、二宮町も高齢化率が高まってきていますので、考えていかなければならないと考えています。

委員： 私が住んでいる地区では、一人暮らしの方が1番大変なのはごみ出しと言います。ごみ出しのために元気でいなければならないという声も聞きます。少し痴呆が始まってくると分別は無理になります。近隣の人がサポートをする状況が出来つつあります。個別収集の実施に期待したいです。あとひとつ、前に戻ってしまいましたが、子どもへの環境学習はすごく良いです。一色小学校の4年生に行ったとういことですが、他の学校も実施しているのですか？

事務局： 山西小学校からも依頼があって9月に行く予定です。二宮小学校も「にのっこパーク」というイベントの中で環境部門のコーナーで参加していく予定です。

委員： 子どもの時からライフワークのひとつにごみ問題をいれてもらうと、子どもはすごい関心を持ちます。小さい時からの教育が大切です。

事務局： 広域化の資料も配りますので、目を通していただいて、もし疑問点があれば担当へご連絡をお願いします。

会長： 以上をもちまして第1回の会議を閉会させていただきます。

4. 閉会